



—— 具体的にどのような内容ですか？

内田 2007年以降、毎年、中国の北京外国語大学、韓国の嶺南大学校、イタリアのローマ大学そして本学で年4回、それぞれの院生が一堂に会して研究発表と討論を行っています。なお、北京外国語大学とは平成14年以降ずっとインターネットによる遠隔授業を行っていますね。現在は東アジア文化研究科の「文化交渉学概論」の授業で毎月1, 2回、外国語教育研究科の院生のための講座を月1回、その他、外国語学部の中国語専攻生1年生の中国語の授業を毎週行っています。

—— どのような成果があったでしょうか？

内田 このフォーラムがあることで自分の研究の水準がわかりますし、専門家から意見をもらうことができます。そしてそれを論文執筆に役立てるとか、交流して知り合った人たちがその後も引き続き学術交流を行うといったことが挙げられますね。参加人数は、日中韓3国とローマも含めて開催しますので人数の制限を設けているんですけど、本学からはだいたい30人くらいが毎年参加して、全部で一番多い時で100人以上になります。ローマでやる時も、今年は本学から30人くらい参加しましたからイタリアの学生と合わせたら50~60人くらいにはなりますね。

また、フォーラムを開催する時は予稿集を編集します。また、2年前から、フォーラムでの研究発表の中から得に優れた内容のものを選定して「論文集」として出版しています。

—— 苦労された点はありますか？

内田 やはり海外出張費などのコストですね。学会発表援助費等をかき集めてますけど基本的には私費ですね。東アジア文化研究科の先生に外国語教育研究科の沈先生も含めて合計10人になりますが、院生の食費などを一人2万円ずつほどカンパするなどして持ち出しで支援しています。

他には言語の問題が色々出てくることもあるんですね。この学会はローマで発表するときは英語で行います。日中韓で発表する時は日中韓英どれもよいということにしております。ただ、韓国語の話者が少ないので、ある分科会だけは韓国人しかいないということがあるとは思います。





—— 今後の展開を教えてください。

内田 今後もやはり毎年このフォーラムを続けていく予定です。日中韓伊という面白い形ですけどね。今後はもう一つ別の形態の学会を続けていくかもしれません。先日第一回を開催しましたが、後期博士課程の学生のみによる、より専門的な学生のフォーラムを新しく立ち上げました。これはこれまでと違って、日、独、オーストリア、イタリア、韓国、中国、ドイツ、オーストリアの博士課程の学生が参加するフォーラムになります。2018年にはオーストリアで開催する可能性があります。

いずれにしても、院生はここで鍛えられますので、卒業後の就職状況も好調です。中国からの留学生は中国に戻って、中国の大学で教鞭を取る者が多いです。北京大学、北京語言大学、厦門大学、浙江工商大学、武漢大学、中山大学といった、いわゆる中国の重点大学などの専任教員になっている人も多くいます。もちろん日本人の卒業生も大学の教員や博物館の学芸員になっている人もいますから、卒業生はがんばってますね。



研究者氏名	内田 慶市
所属学部・学科等	外国語学部 外国語学科
職名（資格）	教授
専門分野	中国語学
研究者情報	http://gakujo.kansai-u.ac.jp/profile/ja/0cfbeed0fb.fc3ef7)9b11cd5cf9.html

発行：関西大学国際部 <http://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/>

